

ミニアプリ公開 & メンテナンス

丸山直也

2014年2月24日

第12回アプリFS全体会議

基本方針

- 当初の予定通りオープンソースソフトウェアとして公開
- AICSにて引き続きメンテナンスしていく
 - エクサスケール開発プロジェクトの一部として継続する見込み
 - 主にこれまで通り丸山、鈴木が担当
 - オリジナルコード提供者側の協力必須
- 今後のAICSでのエクサ開発プロジェクトとアプリケーションの接点

公開までの手順

- (再度)オリジナル提供者による確認
– ライセンスなど
- ソースリポジトリ作成
- メーリングリスト作成

オリジナル開発者確認事項

以下について公開の準備が出来次第個別に確認をいれます

1. ソースファイル

- 公開可能かどうかの確認(注: 一部ミニアプリで Numerical Recipes由来コードの利用が確認されています)

2. ライセンス

- 原則、BSD、GPL、Apache、MITなどOSI認証されたオープンソースライセンスから選択
- 独自ライセンスは個別に調整

オリジナル開発者確認事項

以下について公開の準備が出来次第個別に確認をいたします

3. 名称

- オリジナルアプリ名を尊重しつつ、「ミニ」版でありオリジナルとは混同しない命名ルールとする
- 命名規則案
 - オリジナルアプリ名 + “-mini”
 - Marble-mini、など
 - すでに簡略化されたものの場合はそのままの名称
 - CCS-QCDなどはそのまま
- 原則であり、ケースバイケースで決定

4. 著作権者

- オリジナルアプリ著作権者と理研

5. 連絡先、URLなど

ソースリポジトリ

- バージョンコントロールリポジトリに公開
- Githubを利用予定
 - <http://github.com/aics-miniapp> (準備中)
- 各ミニアプリごとにGitリポジトリを作成
- ミニアプリのほかに各種ツールや基礎カーネルベンチマークなども公開
- イシューリストなどもGithubを利用

メーリングリスト

- miniapp at riken.jp
 - ミニアプリ全般の窓口
 - メンバー： 丸山、鈴木
- miniapp-origin at riken.jp
 - ミニアプリ全体に関するアナウンス用
 - メンバー： オリジナルコード提供者

公開後

- 原則コードはすべて公開リポジトリ上で開発
- バージョンアップ
 - 大きなアップデートがある場合にバージョンアップ
 - 個々のミニアプリ毎にバージョン管理し、バージョンアップのタイミングを揃えることはしない
 - オリジナル開発者もしくはAICSからバージョンアップの要望を出す

公開後

- オリジナルコード開発者とのやりとり
 - バージョンアップ時にはあらかじめ確認の連絡を必ず入れます
 - その他、リポジトリへのコミット時などの変更はあらためての連絡は必ずしもしません。公開リポジトリを参照すれば常に確認することが可能です。

今後

- 3月中に一部の公開準備完了したものについてオリジナル開発者に確認し公開
 - CCS-QCD、NGS Analyzer、FFVCなど一部のみから試験的に開始
- 来年度初めに残りのミニアプリについて同様に公開
- エクサプロジェクトの一環として引き続きミニアプリの開発、メンテナンス、普及を推進→引き続きご協力よろしくお願ひします

- 以下補足スライド

ライセンスについて

- ミニアプリの性格上、可能な限り自由なライセンスが望ましい
 - ミニアプリはダウンロードして使ってもらってなんぼ
 - 利用契約などなしに利用できるべき
- 個々のミニアプリで別個のライセンスとする
 - 理想的には全体で合意して単一のライセンスが良いが、合意は現実的には難しい
- 自由なライセンスであったとしても利用者にわかりづらいライセンス条項があると利用の妨げとなりうる
 - 原則オープンソースライセンスとして一般に認知されているものとする→OSIに認証されたもの